「僕の主導権を取る競走を見てください」
長い距離を踏めるのが菊池岳仁の持ち味

山口拳矢が共同通信社杯をまくりで制した15分後、菊池岳仁が宇都宮の決勝を走っていた。打鐘過ぎに先頭に立ち、結果は4着だったが、しっかり先行。3日間、主導権は誰にも譲らなかった。

その彼が、この夏、収穫があったんですよと切り出してくれた。8月の富山記念と9月の福井FI、ともに最終日。決勝には進めなかったけど、抑え先行で3着、2着。「駆けなきゃ、駆けなきゃと、いつも焦っていたけど、そのレースは冷静でした。相手の動きを見て、逃げられました。これからは相手が嫌がることを考えて、やっていきたいんです。冷静に走れないとできないですから」。

GI初参加のオールスターでは9着、8着、7着。逃げつぶれたり、被ったり、まくりで一杯になったり。脚が足りないし、やっぱり末脚が甘いと解説してくれたが、「関東の先輩たちにいろいろアドバイスをもらいました。そのことを意識してやっています」。GIの洗礼も含めて、これも今夏の収穫でしょ。

ナショナルチームに所属しているから、競輪に向けた練習はできないし、自転車は変わるしで、きついと思うけど…。「だいぶ慣れました」と、言い訳なし。「弥彦は声援が温かくて、一番好きなバク」。最後に2問ぶつけた。

―選手になってよかったこと

自分の脚で戦って、生活できること。自分が努力した分だけ結果が出て、それが収入につながる。

―逆に苦しいこと

結果が出なかったり、状態が悪いときに、どうしたらいいのか、迷いながら、いろいろするじゃないですか。体じゃなくて、そのときの精神状態がきついです。

▽弥彦競輪　寛仁親王牌
世界選手権記念トーナメント
それいけ117期　第2話

【新潟スポーツ　信氏　忠】